

# 口腔の役割

## 口腔の粘膜は出世魚！？

身体全体を覆っている皮膚や粘膜は、外部からの刺激や細菌の侵入を防ぎ、体の内部を守っています。皮膚の表面は「表皮(ひょうひ)」、粘膜の表面は「上皮(じょうひ)」といわれ、同様に地層のような4枚重ねの構造をしています。4枚重ねの一番下の「表皮・上皮の元(もと)を作る細胞」が、体の外側に向かって常に代謝(たいしゃ)を続け、死んだ細胞を捨てているのです。

この捨てられる表皮・上皮が「垢(あか)」です。生きた細胞で身体の表面を守るよりも、この死んだ垢で外敵の侵入を防ぐことで、身体のダメージをより少なくすることができ、実に合理的なしくみです。

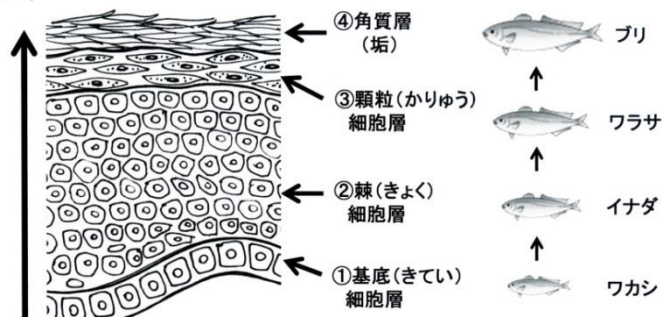
垢になるまでには、一番下の①「表皮・上皮の元を作る層」は次に、石垣(いしがき)のように、互いの細胞同士ががっちりスクラムを組んだ②「丈夫な層」に変化します。さらにこの層は、③「垢を作る準備をするための層」へと形を変えます。そして最終的に④「垢」となり、最後は外に捨てられます。この4つの層にはそれぞれ名前があり、そしてこの代謝が止まることはありません。

一般に、皮膚であれば1~2か月程度で、口腔粘膜であれば2週間程度で、つねに皮膚および粘膜が入れ替わっています。夏に日焼けをしても、秋にはまた元の皮膚の色に戻ってしまうこと、また、口の中のケガはすぐに治ってしまうことがその証明で、皮膚にくらべて口腔粘膜は代謝が早いことがわかります。

■このように成長に伴い呼び名が変わるものにブリやスズキ、ボラなどの出世魚(しゅっせうお)が頭に思い浮かびます。例えばブリの場合、地方によって呼び名がまちまちですが、成長する大きさによって、関東地方では①ワカシ→②イナダ→③サワラ→④ブリと呼ぶようです。

ブリの運命ですが、最終的には寿司、刺身、照り焼きなどになり、われわれのお腹に入ります。それでは口腔粘膜の運命は？…実は気付かぬ間に、われわれは粘膜の垢を飲み込み、これもまたお腹に入っているのです。…口腔粘膜はまさに「出世魚」なのです。

外に向かい、  
細胞を捨てて  
いく



口腔粘膜上皮



【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

